

近畿地区特別支援学校知的障害教育校

## PTA 連合会研修会(大阪大会)に参加して【ご報告】

去る11月19日、大阪府立男女共同参画・青少年センターにて「近畿地区特別支援学校知的障害・PTA 連合会研修会(大阪大会)」に参加してまいりました。当日はコロナ渦ということもあり、各校より参加人数の制限を設けられていたため、会場にも空席が少し目立ちました。しかし、熱い思いを持ってこの研修会に臨まれ参加した方が多いように感じたので、会場は満席のような熱気を帯びていました。

研修会の前半は、各校の情報交換会として、今回は3校のPTA活動が発表されました。

まずは、大阪府立住之江支援学校のPTAさんからの発表です。こちらでは、コロナ渦でもできるPTA活動とは？を本部で話し合い、様々なアンケートを全生徒に実施されたという内容でした。コロナの前後で何が変わったのか、休校中のデイサービスの利用状況、今後に向けて…等々、それらのアンケート結果の報告もありました。具体的な数字を表にしてまとめることで、今後のPTA活動の方向性がよくわかり、私もとても参考になりました。

次に、兵庫県立こやの里特別支援学校のPTAさんより発表がありました。こちらの学校は、小学部から高等部まで合わせて全生徒406名のマンモス校であり、だからこその様々な取組が発表されました。役員さんの数も多く、また専門部の多様さにも驚かされました。その専門部の一つとして「進路研究部」を少しご紹介します。この部では、PTA自ら施設見学会や講演会、地区懇談会等を開催されているとのことでした。ぜひ本校でも実践してみたい活動内容だなと私は思いました。ただ、マンモス校ならではの悩みもあるようで、下校時の駐車スペースが足りずに、デイサービスのお迎え車が列を成しているとのこと。そのため、学校と福祉の連携を更に高めている最中です、とお話されていました。

最後に発表されたのは、奈良県立西和養護学校のPTAさんです。こちらの発表はかなり盛り上がりました！PTA会長さんの「トーク」がまるで「座談会」のような雰囲気だったので、発表の最後まで楽しくお話を伺うことができました！内容としては、「時代に合ったPTA活動に変革したい！」というものでした。こちらの学校の全生徒数は約260人で、PTAの役職が総勢約80名必要になるとのこと。奈良県という立地から、大阪へ通勤している方も多く、PTA活動を行うには、平日は帰宅時間が遅くなるので、休日ぐらいしか集まらない状況だそうです。これでは活動に参加したくてもできないという方が増え、各役職の必要性を根本から話し合い、何度も試行錯誤を繰り返しながら、徐々に段階を踏んで改革を進めてきたそうです。中には反発する意見もあ

ったようですが、結果的には役職を必要最小限にしたことでコロナ渦も乗り越えられたと仰ってました。これからの時代やニーズに合った取組は本当に大切だと実感いたしました。

研修会の後半は、香川大学教育学部の坂井聡教授による講演会でした。こちらの講演は非常に勉強になる内容でした。中でも私が一番印象に残ったことは、「障害」は本人ではなく、その周りの環境(社会)に存在するというお話でした。例えば、車椅子の方が地下鉄に乗車する際、エレベーターがあればスムーズに乗ることができますが、階段だけなら(他人の手助けがないと)乗車できません。つまり「障害」とは、その方の自立行動を妨げる周りの環境にあるのだと、そう仰ってました。なるほどな…と私は感動してお話を伺っておりました。「障害」に向き合うということは、周りの環境である私たち全員がお互いに他者を認め合うことではないでしょうか…。そのように私は理解いたしました。

坂井教授は支援教育に関する著書をたくさん出版されているようです。このお話の続きをお知りになりたい方は、ぜひそちらの著書で確認してみてください。

今回この研修会に参加させていただき、本当に感謝しております。皆様に少しでもお役に立てられる情報があればと思い、つい長々と書いてしまいました。また次も研修会に参加できれば、その時をご報告差し上げます。ありがとうございました。

(PTA 本部・長尾美香)